キャラクター名
明々 白　（めいめい　はく）

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ キュマイラ	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	中学生
オプショナル		年齢	14	性別	オス
覚醒	素体	衝動	飢餓	初期侵食率	30 %
出自	結社の一員	経験	実験体	邂逅	好敵手

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	6	1	1			8
感覚	0	0	1			1
精神	0	0	1			1
社会	2	0	0			2

HP	37
行動値	3
(非装備時)	3
戦闘移動	8
全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	2		知覚			意志		+1	調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：ｺﾈ〈研究者〉	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
攻撃準備/3+4	白兵	8r+4				ｺｽﾄ9/完全獣化+破壊の爪/ﾏｲﾅｰ
素手攻撃/1+2/100↓	白兵	12r+4	1	13		ｺｽﾄ4/　12DX+4@8
素手攻撃/1+2/100↑	白兵	13r+4	1	16		ｺｽﾄ4/　13DX+4@7

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
思い出の一品	
コネ：<研究者>	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	ﾀｲﾀｽ	消費
明々 詩（めいめい うた）	P　好意	N　不安		
常盤　文雪（ときわ　じょうせつ）	P　信頼	N　偏愛		
黒崎剛道	P　慈愛	N 不信感		
永見昴	P　好意	N　悔悟		
能登 蛟（PC2）	P　誠意	N 劣等感		
一之瀬 銀（PC3）	P　信頼	N　恐怖		
"彼女"	P　友情	N　不安		

最大財産P:　4	残り財産P：　1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト<キュマイラ>	2	2	メジャー	-	-	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ		
効果：	組み合わせC値【-Lv】、下限7							
獣の力	2	2	メジャー	武器	単体	<白兵>	-	
効果：	組み合わせ白兵攻撃力を+【Lv*2】							
破壊の爪	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	素手ﾃﾞｰﾀ変更。攻撃+【Lv+8】、ｶﾞｰﾄﾞ値1							
完全獣化	2	6	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	ｼｰﾝ中肉体判定+【Lv+2】							
ハンティングスタイル	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	戦闘移動する。ｼｰﾝ中【Lv回】							
至上の毛並み	★	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	<完全獣化>の姿がすごくふわふわ							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

▽明々白々。はっきりとして疑う余地のない様。火を見るより明らか。メェメェ。

UGNチルドレン。UGN内で生まれ、幼少より実験体として扱われていた。
彼の世界は極めて狭く単純で、表面化され見えたものをすぐに真実だと単純に考える。
たとえ偽りだろうが世辞であろうが、自らが見、そう感じたことが彼にとっての全てだ。
嘘をつく人が苦手、というかあまり理解が及ばない。愛想がなくても良いから、嘘をつかない人が好き。

素直で裏表のない性格ゆえか、偏屈な研究者には大体疎まれるが、稀にとても仲良くなれる。コネ生える。
「ウールじゃねえよ！フールだよ！」

▼
【出自ロイス】母親。優しくないけど嘘はつかない。有用と褒められて嬉しい。好意。不用になったらどうしよう。不安。
【経験ロイス】研究員。数値と記録は嘘をつかないと、良いデータを出した時だけ褒めてくれる。結果を出せば認めてくれる。信頼。こんな人が父だったらもっと優しくなってくれただろうか。偏愛。
【邂逅ロイス】黒崎。黒く塗りつぶされたくないし感情的なのどうかと思う。不信感。でもそんなに必死にならなきゃ不安なぐらい飢えてんの？わかる～。慈愛。

【能登 蛟】人体実験を否定してくれた。この人はとても誠実なひと……誠意！でも、この人は檻のこちら側には居ない人だ。劣等感。
【一之瀬 銀】間違えた事はきっと言わないすごい人だ、という信頼。それを己が望んでいなくても、正しい事だと理解させられてしまう。恐怖。